資料2

議題２　行政における生成ＡＩの活用について（小牧市提出）

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
名古屋市	活用している	Microsoft 365 Copilot Chat	【ルールやガイドラインの有無】 あり（ガイドライン） 【活用している業務とその効果】 ・インターネット上の情報検索 ・文書作成、要約、翻訳 ・アイデアの壁打ち　等 効果：職員1人の利用日あたり平均 19分の時間削減（令和7年度アンケート調査結果） 【新たな取組事例・改善事例】 ・AIエージェントによる業務効率化の検討	【課題】 ・機密情報の利用検討（現在利用を認めていない機密情報も利用できると用途が広がるが、情報漏えいリスクの観点から整備が進んでいない。） ・予算の確保（生成AIの導入効果が可視化しにくいことによる。） 【検討事項】 ・RAGを用いた生成AIの導入検討（現状庁内の情報が参照できず、生成AIの活用業務が限定的になっている。）
豊橋市	活用している	自治体AI zevo	＜ルールやガイドラインの有無＞ 有：豊橋市生成AIの利用に関するガイドライン ＜活用している業務とその効果＞ ・文書作成、アイデア出し、文書要約、メール文案の作成　など ・令和7年度効果時間：約5,900時間 ＜新たな取組事例・改善事例＞ ・職員アンケートにおいて課題として挙がった「利用文字数制限による業務の中断」を解消するため、令和8年度予算において、利用可能文字数の拡充を図った。 ・令和6年度までは事業者に委託していた研修を直営（自前）化した。以前の研修は汎用的な内容であったが、令和７年度からは実際に導入している生成AI（zevo）を研修で利用し、より実践的な内容に変更した。	・本市では令和6年5月に全庁的に生成AIの活用を本格稼働したものの、利用者が一部の職員に限定されており、さらなる普及拡大が課題となっている。 ・普及拡大に向けて、セキュリティリスクへの適切な対応と利活用の促進（個人情報をはじめとする機密性の高い情報をどこまで生成AIに読み込ませるか）の両立について検討を重ねている。
岡崎市	活用している	株式会社電通総研の「minnect AIアシスト」（利用モデル：GPT-5.4、GPT-5.4 mini、Gemini 3.0 Flash、Gemini 3.0 pro、Imagen 4、Imagen-4 Ultra）	・令和６年８月に「岡崎市生成ＡＩの利用に関するガイドライン」を制定。 ・３月末現在で約700ライセンス（PC配備は約2,000人）、３月の利用文字数は約3000万文字（インプット）・約760万文字（アウトプット） ・文章の作成、文章の要約、文章の添削、アイデア創出など幅広く利用されている。	・利用していない職員に周知しさらなる改善効果を発揮する必要がある。 ・利用が進む中で画像生成などにおける著作権に関する問題の顕在化を懸念している。
一宮市	活用している	zevo,QommonsAI	ガイドラインを作成し周知しています。各課へIDを配布し、文書作成、情報検索、あいさつの作成等で活用しており、業務時間の削減などに寄与しています。 各課で活用している事例集を紹介することで、AIの利用促進に努めています。 また、今年度より政策立案、議会対応、住民対応など行政特有の業務に特化した生成AI「QommonsAI」を導入し、さらなる業務の効率化に努めています。	利用する職員が限られているため、多くの職員が利用するよう周知、研修などが必要と考えています。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
瀬 戸 市	活用している	本市では、自治体向け生成AI「自治体AI Zevo」を全庁的に導入し、行政事務のDX推進に取り組んでおります。GPT-5-nano（270K）をデフォルトモデルとし、状況に合わせてGPT-4o（128K）やClaude 4 Sonnet（200K）等を活用しています。	ルールやガイドラインの有無 適正利用のためのガイドラインを整備し、個人情報保護やセキュリティに配慮した運用を行っています。 活用している業務とその効果 文書作成、分析、コミュニケーション支援など幅広い業務で活用しており、具体的には議事録作成、報告書の下書き、データ分析、アイデア出し等で効果が出ています。 新たな取組事例・改善事例 令和8年4月からは、市民サービス向上の取組として、従来の辞書型（シナリオ型）AIチャットボットから生成AI型チャットボットへと全面刷新しました。辞書型では事前に登録された質問にしか対応できませんでしたが、生成AI型では多様な表現、複雑な質問、外国語にも柔軟に対応可能となり、市民の利便性が大幅に向上しています。	月あたりの利用可能文字数は、GPT-5-nano（270K）ベースで12,188,689文字です。令和7年度の実績では、アクティブユーザー約108名（職員に対する割合約12%）、月平均約585万文字を利用しています。 今後は、職員のAIリテラシーのさらなる向上、活用事例の横展開、費用対効果の継続的な検証を進め、AI活用の質的・量的拡大を図る必要がある一方、利用の拡大に伴い予算をどこまで拡充するかも検討課題となっております。
半 田 市	活用している	サービス名：exaBase（Gemini、chatGPT,Claude）	・利用ガイドライン →有 ・主な活用業務と効果 →文章原稿作成、要約、文章校正、アイデア出しなど。 →およそ4,600時間の業務時間削減（削減時間はﾂｰﾙの独自集計） ・取組事例 →活用を広げる段階にあるため、未利用者への研修等の実施や活用シーンの紹介など	・生成AIは画像生成や資料作成支援など活用の幅が広がっているため、現行サービスに限定せず、職員にとってより使いやすく、安全で効果的に活用できるサービスや運用方法について、情報収集と比較検討を進めている。 ・活用範囲の拡大や技術動向を踏まえ、利用ガイドラインの見直しについても検討している。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
春日井市	活用している	QommonsAI（Polimill社製・自治体特化型テキスト生成AIプラットフォーム） AmiVoice ScribeAssist（音声文字起こし・議事録作成支援ツール ※生成AIによる議事要約機能を搭載）	１　ルールやガイドラインの有無 生成AIの利用に関するガイドラインあり（2026年4月に改訂済）。 ２　活用している業務とその効果 主に以下の業務で活用しています。 ・文書作成・処理：あいさつ文、通知文、メール等の下書き作成、添削・校正、要約、翻訳 ・企画・立案支援：事業企画のアイデア出し、思考整理のための壁打ち ・情報の調査・要約：一般的な調べものの要約、Excel・データ処理の支援（関数作成等） ・庁内データの検索・活用（※QommonsAI等の機能を活用）： 　・過去の議会答弁・議事録の検索と要約 　・法令等の検索および解釈の要約（e-Gov法令連携など） 　・自治体HP情報の検索、およびHP掲載文面の改善チェック 【導入効果について】 実証実験時の職員アンケート（2025年10月実施：回答者約320名／回収率約14.8%）において、業務での生成AI利用経験のある職員（100名）のうち、約90%が「業務の時短につながった」、約80%が「業務の質的向上を実感した」と回答しており、効果を確認しています。 ３　新たな取組み事例・改善事例 現段階では、自律型AIエージェントによる業務の自動化といった「生成AIありき」の新規事業には至っておらず、あくまで職員の既存業務の支援・高度化（効率化）を主眼に運用しています。 一方で、ベテラン職員に属人化している業務ノウハウや暗黙知（ブラックボックス化している知見）を、生成AIを活用して次世代へ継承可能な「形式知」へ変換する取り組みに強い関心を寄せています。現在、Code for Japan主導のプロジェクト等の動向を注視しており、当市においても再現可能な形で実装できれば、有効な活用事例になると考えて検討を進めています。	① 全庁的な定着と安全利用の促進 裾野を広げていくこと、利用の定着が課題です。 操作研修等は継続中ですが、特に優良な活用事例の創造と共有や、リテラシー向上が課題となっています。 私物や認可外AIの利用（所謂シャドーAI）のリスクを防ぐ意図でも、公認ツールの定着は急務だと考えています。 ② Copilot等、高度ツールの導入検討 現場からOffice連携ツール（Copilot等）の要望があり、期待しつつも費用対効果の面から慎重に検討中です。 先行導入されている小牧市様等の状況（有償版の導入規模、LGWAN環境から利用しているか等のネットワーク要件）についてお伺いできれば幸いです。 ③ 個人情報等を扱える安全な環境づくり 福祉等、個人情報を含む業務でも生成AIを活用したいという現場ニーズがあります。 データが外部に出ていかない仕組み（閉域網やローカル環境、スタンドアローン等）を検討していますが、費用や性能がネックです。将来的な自治体間での広域連携や共同調達の可能性なども模索できればと考えています。
豊川市	活用している	自治体AI zevo	・ルールやガイドラインの有無 　令和8年4月1日施行で「生成AIの利用に関するガイドライン」を作成している。 ・活用している業務とその効果 　本市では、令和8年4月より生成AIの業務利用を開始したところであり、現時点では膨大な学習データに基づく業務アイデアの創出、文章の要約や校正、意図にそった事例の情報収集などの汎用的な業務利用を想定している。なお、原課での具体的な活用業務については未定。 ・生成AIの活用による新たな取組事例・改善事例 　利用を開始して間もないため、今後の検討課題と考えている。	RAG（独自AI）を活用して効率化を見込める業務の洗い出し、他サービスとの連携等の検討及び生成AIの導入による費用対効果の測定をどのように進めるかが、今後の検討課題と考えている。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
津 島 市	活用している	現在：「Qommons AI」（令和8年1月～3月、管理職を対象にした、議会答弁対策実証実験を実施。） 今後：「自治体AI zevo」（令和8年度より全庁導入予定）	・ルールやガイドラインの有無 ・試験利用ルール（機密情報・個人情報の入力禁止、事実確認の徹底等）を策定し運用中 ・全庁導入に向けた生成AI利用に係る情報セキュリティ実施手順及びガイドラインを今後策定予定 ・活用している業務とその効果 ・主な活用業務：議会答弁関連業務（過去答弁の検索、答弁のたたき台作成、表現の修正・改善） ・参加者アンケートでは、回答者の８割以上が「業務負担軽減及び業務効率化の両方に効果があった」と回答 ・新たな取組事例・改善事例 ・当市ではまだ議会答弁でしか活用できていないため、今年度に全庁導入に取り組み、議会答弁以外の生成AI活用に取り組む予定	・ルールを職員にどのように遵守させていくか、また遵守状況をどのように確認していくかが課題 ・実証実験後のアンケートで、全庁的に生成AI活用を広げるために必要な支援として「定期的な研修、勉強会」が最多の回答であった。一方、情報システム及びDX推進に配置されている職員数が限られており、生成ＡＩだけに時間を割くことが難しく、どの程度の頻度で、どのような研修を実施するか、また継続的なサポート体制をどう構築するかが課題
碧 南 市	活用している	exaBase（ChatGPT、Gemini、Claude等選択可）	ガイドライン作成済。議事録作成（文字起こし・要約）、文章作成・要約、VBA等コード解析・作成に活用。議事録作成について、業務時間短縮による満足度が高い。文章作成においても、1から作成する必要が無く重宝しているとの声がある。 ・新たな取組事例・改善事例 今年度より窓口での会話の文字起こし、翻訳を行うシステムの導入（exabaseとは別のシステム）	LLMの学習知識が古いものもあり、良い回答が得られないことがある。 情報漏洩対策のため国内リュージョンのみ許可しているが、海外リュージョンのみが利用できる機能があるため、海外リュージョンも許可することを検討している。
刈 谷 市	活用している	LoGoAIアシスタント	・ルールやガイドラインの有無 令和６年度より生成AIの利用に関するガイドラインを策定しています。 ・活用している業務とその効果 本市では、令和６年度から会話タイプの生成ＡＩサービスのひとつであるLoGOAIアシスタントを導入しており、令和７年度では約５００名の職員が文章生成や要約、アイデア出しなどに活用することで、業務の効率化を図っています。 ・生成ＡＩの活用による新たな取組事例・改善事例 令和８年度に生成ＡＩによる更なる業務効率化のため、「Microsoft365 Copilot」を試験的に導入し、実際の業務をどれだけ効率化できるか、職員参加型の検証事業を実施します。	導入済みであるLoGoAIアシスタントについて、年々利用者は増加しつつあるが、日常的に利用する職員が一定の層に限られている。より多くの利用者に生成AIを活用する利便性を実感していただくために、庁内研修を実施する予定。
豊 田 市	活用している	ChatGPT(無償版)、CopilotChat、Microsoft365Copilot、CopilotStudio、Officebot、Tachyon	・豊田市生成AIガイドラインを策定済 ・検索、翻訳、調査、マニュアル参照、議事録作成、アイディアの壁打ち、文書作成	・画像・映像への活用判断 ・技術進展が早いため、先行したマニュアル作成では対応が難しいため、都度の技術動向を把握しておくことが必要

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
安 城 市	活用している	GaiXer（令和７年４月より利用中）	・生成AIの利用に関するガイドラインを定めている ・生活保護に関する問い合わせ対応、議会議事録の検索、答弁書草案の作成等に活用 ・令和７年度利用実績 利用者数：858人（会計年度任用職員等を含む） リクエスト数：128,580件 質問文字数：21,960,584文字 回答文字数：91,135,240文字	・新たな活用事例の研究と庁内共有・利用促進方法が課題 ・他社サービスの研究（Ｃｏｍｍｏｎｓ ＡＩ）
西 尾 市	活用している	職員向け生成AIツール（QommonsAI） グループ共有向け生成AIツール（GaiXer） 市民向け生成AIチャットボットツール（amie）	西尾市生成AI利活用ガイドラインを2024年3月に策定（令和８年度中に見直し予定）。 文書作成の補助（言葉の使い方と表現） 自治体業務の効率化（文書作成、議事録の要約、Excel・Accessのコード生成などに活用） 市民問い合わせ対応の効率化（市HPを学習させることにより、回答を自動で生成）	内容の正確性に関する留意点： 生成AIは、事実と異なる情報や根拠が不明確な内容を出力する場合がある。そのため、最終的な判断や確認は必ず職員が行う必要がある。 運用上の課題： 現在、生成AIの活用が一部の職員に限られており、より多くの職員が日常業務で活用できるよう、利用促進の工夫が求められている。 職員知識・課内情報の共有化：職員間の問い合わせや引継ぎに伴う負担を軽減し、業務の属人化を防ぐため、課内の共有知識をもとに質問・確認ができるようグループ共有向け生成AIツールの活用
蒲 郡 市	活用している	LoGoAIアシスタント（令和6年度～7年度） ※令和8年度から新生成AIサービス導入のため、入札公告中	・生成AIガイドラインは、令和6年度に策定済み。 ・議会答弁やメール等の文章生成、Excelの関数作成。 ・新生成AIサービスでは、ユーザーの能力によらずとも生成AIサービスが使いこなせ、求めている回答が得られるようなフロー機能が付いた生成AIサービスの導入を予定している。	令和7年度までは、特定のユーザーのみの使用に留まっていたため、全庁的に使用してもらえるよう職員向け説明会を実施し、生成AIの利便性等の理解の底上げを図っていく予定をしている。
犬 山 市	活用している	LoGoAIアシスタント	文章の作成・修正 関数・マクロの作成 文章の要約 情報収集 調査・分析方法の提案・分析 ※職員がどのような活用をしているか把握できないため、LoGoAIアシスタントでできる機能を記載。	

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
常 滑 市	活用している	Microsoft Copilot、ログミーツ	・ルールやガイドラインの有無： 　ガイドライン有 ・活用している業務とその効果： 　企画立案、議事録作成、議会答弁資料作成など、幅広く活用しています。定量的な効果は測定していませんが、職員からは業務の効率化が進んでいると聞いています。 ・新たな取組事例・改善事例： 　生成AIを活用した市民向けチャットボットを導入しました。市のHPを整理するのみで回答精度が高まり、チャットボット用のQA管理の手間を削減しました。	利用者を増やすことが課題です。また、RAGの活用について検討を行っています。
江 南 市	活用している	自治体AI ZEVO	ZEVOはLGWANで生成AIが安全に利用できることに加え、入力した内容を生成AIが学習しない、個人情報等のマスキング機能、市の計画や条例など独自の前提条件に基づいた回答を生成するRAG機能などが搭載されています。主に文章案の作成や要約、アイデア出しなどに活用するとともに、RAG機能により、市の条例や市議会の会議録等独自情報に基づく回答の作成等さまざまな状況で活用しています。 生成AIの利用にあたっては、ハルシネーションや著作権侵害などのリスクがありますので、生成AIガイドラインを策定し、職員への適切な利用を徹底しています。	・使用する文字数により料金が変動する従量制で、月ごとにプランが変更できる単価契約を結んでいます。職員の利用状況によっては、想定利用文字数を超過しまい利用できなくなることがあるため、予算とのバランスに苦慮しています。 ・画像生成のニーズが高まってきていますが、著作権侵害などのリスクを鑑み、許可していない状況です。他自治体での画像生成許可事例やリスク管理について、ご教示いただけますと幸いです。
小 牧 市	活用している	Copilot、QommonsAI （OpenAI　Claude　Gemini　PLaMoを使用可能）	・生成AIの概要やリスクについて説明した職員向けのガイドラインあり。 ・文章作成、アイディアの提案、翻訳、プログラムコード生成など。 ・今年度、基本計画を内製にて策定する際に活用する予定。	有効な活用事例等について、職員間で効果的に共有する方法を模索中。
稲 沢 市	活用している	文書生成　：　コモンズAI（ポリミル） 画像生成　：　Firefly（Adobe） 音声認識　：　ログミーツ（時空テクノロジーズ）	・ルールやガイドラインの有無 　令和８年４月に整備済。 ・活用している業務とその効果 　文書生成と画像生成に関しては導入直後であり実績がありません。 　音声認識については、各種会議の議事録作成にかかる時間の短縮に繋がっています。 ・生成ＡＩの活用による新たな取組事例・改善事例 　令和８年５月から、市HPにおけるチャットボットをシナリオタイプのシステムから生成AIを利用したシステムに変更予定です。	生成AIを導入することによる効果をどのように測定するか。 著作権や、ハルシネーションといった生成AIに起因する諸問題に対する職員の理解不足。
新 城 市	活用している	LoGoAIアシスタント(モデルChatGPT)	・ルールやガイドラインの有無 →有（令和6年4月 ガイドライン策定） 　・活用している業務とその効果 →メール文、起案文、議会答弁資料の作成。 　文章の要約、翻訳、添削。 　エクセルの関数作成、マクロ作成。等 　効果は不明だが、月の消費トークンが契約上限に達した。（令和8年3月データ） 　・新たな取組事例・改善事例 →生成AIを使用したエクセルマクロ作成研修の実施。（計3回）	生成AIの使用者と未使用者の間で二極化が進んでいるため、使用者層の拡大を目指した取り組みを検討している。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
東 海 市	活用している	つなぎAI	・ルールやガイドラインの有無 愛知県のガイドラインを参考に市ガイドライン策定を行い運用している。 ・活用している業務とその効果 主に議会答弁案の作成等の文書生成や、 マニュアル検索等のQ&A用途に使用しており、職員の業務負担が軽減されている。 ・新たな取組事例・改善事例 利用促進を図るため、業者による相談会や作成支援等を実施した。	導入当初より利用率は上昇しているものの、一部のユーザーに利用が偏っている状況であるため、さらに活用幅を広げるための取組が必要と感じる。
大 府 市	活用している	ChatGPT（OpenAI）、Gemini（Google） ※無償版	【ルールやガイドラインの有無】 ・令和５年12月１日付けで利用基本方針の策定済み。 【活用している業務とその効果】 ・文書校正（文書修正や句読点の位置等） ・文書案生成（会議資料案の生成等） ・議会答弁シミュレーション ・視察や出張の工程作成 ・あいさつ文作成・校正 【新たな取組事例・改善事例】 ・CIO 補佐官による生成AI の最新動向の紹介 ・生成AI についての利用促進のための研修を実施	令和８年３月にプロポーザルを実施し、令和８年度より有償の生成AIを導入するとともに、同年７月から全庁的な活用を予定しています。今後、利用者の増加が見込まれることから、ハルシネーションへの対応をはじめとした適切な利用方法の周知が課題となっています。課題への対応として、複数回の研修を実施する予定です。
知 多 市	活用している	LoGoAIアシスタント	・令和8年4月から利用開始 ・利用開始に合わせて、知多市生成AI利用ガイドラインを策定 ・利用開始から日が浅いため目立った活用業務、取り組み事例、改善事例といったものは把握していないが、活用事例をガイドラインに記載 【活用事例】 ・日常業務　：　文章の作成・添削・要約、Excelの関数やマクロの作成・確認 ・企画業務　：　企画のアイデア出しや資料作成、企画実施時のシミュレーション ・調査・分析業務　：　調査手段・アンケート設問の提案、分析結果のまとめ方の提案 など	利用開始からあまり日がたっていないため、まだ課題等の検討には至っておりません。
知 立 市	活用していない			今年度導入のためのプロポーザルを実施予定。
尾 張 旭 市	活用している	自治体ＡＩ「ｚｅｖｏ」	・尾張旭市生成ＡＩシステム利用ガイドライン（令和８年４月１日策定） ・自治体ＡＩ「ｚｅｖｏ」を令和８年４月１日から導入しています。 ・主に文書校正・要約・分析、アイデア出し等に利用し、システム上約19日18時間の業務時間が削減されています（令和８年４月１日～２１日集計）。導入したばかりのため、効果が確認できるほどの利用ができていない状況です。	本市が取り入れている生成ＡＩは、アカウント数の制限はないため、全職員にアカウントを配付できるものの、利用するプラン毎に文字数の制限があり、大幅に文字数を消費するような使用方法（資料の読込、画像生成）に向いていないようです。職員に広く利用して欲しいと考えていますが、文字数制限が障害になり、大々的に宣伝できていません。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
高 浜 市	活用している	自治体AI　Zevo	高浜市生成AIの利用ガイドライン（令和6年3月29日策定）を定め、職員の業務の効率化・高度化を図るため、生成AIを活用しています。主には、文書の洗練やデータ分析、集約など多岐にわたっております。また令和７年度においてはRAG機能（＊）を活用し、人事関連（勤務・休暇・福利厚生等）で有効性の検証を行っており、令和８年度においては庁内において活用業務を募集し、さらなる活用に向けて検討を進めていく予定です。 （＊）RAG機能とは、通常、生成AIは利用者の質問に対し、インターネット上に公開されている情報から回答を生成します。それに対し、RAG機能は参照先データを指定することができる仕組みであり、高浜市のマニュアル等を指定すれば、マニュアルに沿った高浜市独自の回答を生成するというものです。	前述の活用内容にあります検証において以下の課題がありました。 ●個人的な状況や個別事情に特化した内容の回答が生成されない。 ●現場が直面する「個別性の高い問い合わせ」への対応力には限界がある。 ●情報源が不在となるような案件については回答が不可能である。 以上の課題に対して 〇生成AIを活用する業務範囲の明確化 〇実務特化型ドキュメントの新規作成などで対応できるかを他業務でも活用しながら検証していく。
岩 倉 市	活用している	生成AI-zevo QommonsAI	生成AIガイドラインを定めている。（令和６年） 毎月平均50名程が利用しており、利用用途としては、文章の要約や校正、翻訳、企画・アイデア出し、統計分析、エクセルマクロのコーディング等多くの分野で利用されている。	特になし
豊 明 市	活用している	ＬｏＧｏＡＩアシスタント	・令和５年のトライアル開始時にガイドラインを策定している。 ・活用状況の調査や検証はしていないので効果は不明です。 　議会の答弁書やあいさつ文の作成、企画提案書のたたき台、文章の要約・翻訳、アンケート調査の回答整理・分析等に利用している。 ・係長以上と利用希望の職員にLoGoチャットのアカウントを付与していたが、令和８年1月に全職員へアカウントを付与し、LoGoAIアシスタントも全職員が利用できるようにした。	令和７年度にＤＸ推進研修の中で、ＡＩの利活用について少し触れたが、現状は職員個人の意欲頼みになっている。全庁的に活用し、業務の効率化・省力化を図るところまでは行っていない。 　専門的な研修の実施など利用拡大のための方策が必要と考えている。
日 進 市	活用している	AIGatewayChatGPT、 QommonsAI	・ガイドライン有 ・議会答弁作成業務や、通知文作成業務などを中心に各課で適宜利用している。また、業務改善のためにエクセルマクロ等の作成を行っており、コード生成にAIを利用している。それによる業務削減時間（理論値）は、約6,400時間を見込んでいる。 ・生成AIの活用方法について検討する研究会「生成AIラボ」（庁内複数課から参加者を選出）を設立し、生成AI活用促進のためのインフルエンサーを育てると共に、将来的には本市独自の問い合わせ対応型AIの構築を目標に活動した。	庁内問い合わせ対応への生成AIの活用、簡易な庁外（市民）問い合わせ対応への応用が、今後の検討課題であり、最終的には「人とAIが自然に協働する自治体業務」の実現を目指す。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
田 原 市	活用している	QommonsAI（Polimill株式会社） 自治体ＡＩ zevo（試用期間）　※令和8年2月～4月中旬まで	・ガイドラインの有無　有（田原市生成AIの利用ガイドライン） ・活用している業務とその効果 　主に文書作成や要約、教育資料の作成、コミュニケーションにおける表現検討、文書校正といった業務でAIを活用しています。zevoの試行期間終了時に実施したアンケートでは、職員の約75パーセントが「時間短縮につながった」と回答しており、事務の効率化において確かな手応えを得ています。 ・新たな取組事例・改善事例 　今後の取り組みとして、Ｑｏｍｍｏｎｓ ＡＩのプライベートナレッジ機能（いわゆるＲＡＧ機能）を活用することで、全庁的に利用する契約や会計などのマニュアルをＡＩに登録し、業務知識をシステム内で共有することで、職員が知りたい情報を即座に照会できる体制を構築し、事務の適正化と効率化を一層推進していきたいと考えています。	生成ＡＩ特有の課題であるハルシネーション（事実に基づかない誤った情報の生成）への対策、入力内容の機密保持といった職員の倫理観の向上、またＡＩの利便性を最大限に引き出すため、職員全体のデジタルスキルやＡＩを使いこなす能力の底上げが急務であると考えており、今後も全庁的な研修や情報共有を通じて、組織全体の活用スキルの向上が重要な課題であると感じています。
愛 西 市	活用している	つなぎＡＩ・Ｑｏｍｍｏｎｓ ＡＩ	本市では、Ｄｉｆｙ（ディフィ）をベースとした「つなぎＡＩ（アイ）」をメインに運用しつつ、今年度からは操作がより簡便で汎用性の高い「Ｑｏｍｍｏｎｓ（コモンズ）ＡＩ（エーアイ）」を新たに導入しました。これにより、職員が日常のあらゆる場面でＡＩを多角的に利用できる環境を整えています。 ・ルールやガイドラインの有無 活用の指針として「愛西市生成ＡＩ利用ガイドライン」を策定し運用を徹底しています。具体的には、機密性２以上の情報の入力禁止を厳格に定めるとともに、ＡＩが生成した回答内容については必ず職員が最終的な確認を行うことを運用ルールとして義務付けています。 ・活用している業務とその効果 活用業務は多岐にわたり、議会答弁の作成支援や議事録の要約、市民からの問い合わせに対する回答案の作成などで利用しています。特に本市では今年度より、ネットワーク構成を「β’（ベータダッシュ）」モデルへ移行しました。職員端末がインターネット接続環境となったことで、生成ＡＩによるネット上の最新情報の取得が可能になり、施策のリサーチや調査業務においてより大きなメリットが生まれくると考えます。 ・生成ＡＩの活用による新たな取組事例・改善事例 本市独自の新たな取組として、特定の定型業務に強みを持つ「つなぎＡＩ」に加え、汎用性に優れた「Ｑｏｍｍｏｎｓ ＡＩ」を併用する体制を構築しました。これまで庁内データの活用が中心であった環境から、β’環境への移行によりインターネット上の最新リソースを直接業務端末から取り込めるようになったことは、運用面における大きな改善です。これらは導入されたばかりではありますが、今後は施策立案の高度化や、これまでのＡＩ活用の一歩先を行くメリットをもたらすものと期待しています。	現状の課題としては、先行導入した「つなぎＡＩ」の利用率が上限トークンの２０パーセント前後に留まっている点が挙げられます。このため、誰でも直感的に使え、かつ汎用性に優れたＱｏｍｍｏｎｓ ＡＩを併用することで、ＡＩ利用の裾野を広げ、全庁的な活用促進と利用率の底上げを図っています。導入間もない段階ではありますが、今後はインターネット環境の強みを活かした効果的なプロンプトの活用研修などを継続的に実施し、事務のさらなる高度化と迅速化を加速させていく方針です。

市　名	回答			
	（１）生成ＡＩの活用状況	（活用している場合）		（２）その他、課題や検討状況
		生成ＡＩの種類	活用内容	
清 須 市	活用している	自治体AIZEVO	ガイドラインについては”清須市生成AI利用ガイドライン”を令和６年度に作成済み 主な活用事例 ・複雑な行政文書や法令を簡潔にまとめ、要点を把握しやすくすることで、業務理解の効率化と意思決定の迅速化等に活用 ・政策立案や業務改善において、新たな視点からのアイデア創出や検討中の案についての意見交換相手として利用し、思考の整理等に活用 ・業務効率化のためのExcelなどのマクロについて、新規作成や既存マクロのエラー修正、機能改善の支援等に活用	現在、庁内での生成AI活用には主に三つ課題として認識している事項がある。一つ目は、利用者が特定の職員に限定されており、組織全体への普及が進んでいないこと。これにより、AIがもたらす業務効率化の恩恵を十分に得られていない。二つ目は、職員が個々に異なる方法でAIを活用しているため、効果的なプロンプトの共有がなく、組織的な知見の蓄積と標準化が必要と考える。三つ目は、費用面について、本市が利用しているZEVOは従量課金制であり、利用が広がるにつれ費用が増加していくため、財政的負担の増加が懸念される。
北名古屋市	活用していない			令和８年５月から運用開始予定です。
弥 富 市	活用していない			令和６年度に近隣自治体、電算事業者と共同にて、検証を実施したが、導入、活用には至っていない。
みよし市	活用している	QommonsAI	実証実験として一部職員に限定し利用している。 ・生成AI導入研修の受講を原則としており、アカウント利用希望者に研修を実施した後、利用を開始していただく運用としている。 ・生成AI利用ガイドラインを作成済 ・返信メール案、挨拶要旨の作成及び事業立案等のアイデア出し等で活用している。	AI活用（生成AI）の活用に対して理解が進まない。 生成AIの効果検証の可視化が難しい。 専門AIを活用できる人材の育成等について課題がある。
あ ま 市	活用している	つなぎＡＩ（プログラム知識がなくても簡単に使える生成AIの「Dify」を、自治体向けの環境に開発された生成AI）	あま市生成ＡＩ利用ガイドラインを策定（令和５年７月制定、令和６年８月改定）し、職員に周知している。本市が活用している生成ＡＩの「つなぎＡＩ」は、本市独自の業務の手引きや制度などの資料を登録することが可能で、業務に応じたシナリオを事前に登録することや、あらかじ決められたプロンプトを入力することで誰でも簡単に生成ＡＩの利用が可能となっている。なお、ＬＧ－ＷＡＮ環境に生成ＡＩを構築することにより、個人情報がインターネットに流出することがない反面、インターネットの情報を見に行くことができないため、生成ＡＩからの回答が最新の時事に対応していない欠点がある。	令和７年１１月に実施した職員対象のアンケートにおいて、生成ＡＩの利用方法では６５．９％の職員が単に情報を検索するのではなく、文書の要約やエクセルの関数作成など生成ＡＩを活用することにより業務効率が向上するとの回答があった。 また、８５．９％の職員が生成ＡＩを利用することにより仕事の効率が向上するとの回答があった。
長久手市	活用していない		・令和5年11月に生成AIの利用ガイドラインを作成 ・ブラウザ環境にて個人単位で利用中（文案整理やExcel補助等で活用） ・R8年度中に無料で利用できる生成AIのトライアル導入を検討中	